

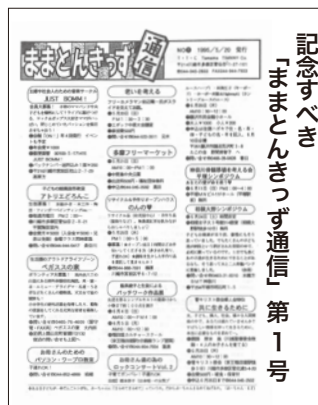
# ままとんきっず通信 200号記念!!



今皆さんが読んでいる「ままとんきっず通信」が、この度200号を迎えました。

1995年5月20日に第1号を発行し、最初は月刊でその後隔月刊発行で約30年が経ったわけです。

ままとんきっずは最初に「子育てママのタウン情報誌 ままとんきっず」という100ページ以上ある雑誌を1994年に発行しました。これは半年に一回くらいの割で発行していましたが、その間にこぼれ落ちてしまう地域のイベントなどの情報をなんとか皆さんにお届けしたいということで、月刊の4～8ページの通信を発行することにしました。



主にままとんきっずの活動内容、地域のイベントや講座などの情報、お母さんやお父さんのエッセイや漫画などを掲載していきました。エリアは川崎全域、横浜北部、稲城市など広い範囲に渡り、市民館、図書館、保健所、公民館、地区センター、こども文化センターなどで配架してもらいました。当時はまだスマホや携帯電話もなく、パソコンも一般家庭にはそんなに普及しておらず、インターネット環境が身近ではなかったため、地域の情報を得るにはままとんきっず通信のような紙の印刷物が主流だったのです。

今でこそ手元にはスマホがあり、ちょっと操作すればありとあらゆる情報が簡単に得られますが、30年前は自分の足で出向いて情報紙を取りに行かなければ、手に取らない状態が普通でした。

掲載情報を集めるのも大変でした。いろいろなところに出向いたり、チラシを探したりしながら通信への掲載許可をもらいました。現在のように居ながらにして簡単に情報を得られるということではなかったため、逆に厳選した情報を掲載できたと思います。

最初はB5判で4ページの小振りな通信でしたが、だんだんと情報量が増えA4判になり、ページ数も多い時には12ページになりました。

「ままとんきっず」本誌の方はお母さんたちが必要とする、保育園、幼稚園、子育てサークル、遊び場。またお医者さん、地域の子連れで入れるレストランやお店、子育てに役立つ施設、制度、民間情報などなど、どんどんお役立ち情報をまとめては発行していきました。



そのほか、子育てのノウハウ、子どもとの遊び方やメール相談、子育てサークルの作り方などをまとめた単行本も何冊も発行しました。

その後時代が変わりネット環境がどんどん充実し、個人でも簡単に情報が得られるようになったため、「ままとんきっず」本誌の発行を取りやめました。通信は内容を変えて、サロンのお試しチケットをつけたり、グループ保育とんとんや子育て支援センターの情報など、ままとんきっずの活動中心の内容になりました。

活動の内容も情報発信中心から、様々な分野に広がっていきました。

子育てサロン、リサイクルスペース、メール相談、電話相談、グループ保育、家事育児サポート、子育て講座、子連れコンサート、出張保育、一時預かり、川崎や神奈川県内の子育て支援グループとのネットワーク、子育てサークル支援、小中学校での妊婦体験赤ちゃんふれあい体験、行政との協働で立ち上げた子育てまつり、子育て支援者養成講座、支援関係会議などなど。

現在はやっていない事業もありますが、一時期は子育て支援フルメニューと言われるくらい、たくさんの子育て支援活動を行っていました。

開始当時は5名だったメンバーもどんどん増え、最大時には登録活動者が80名近くなりました。

最初は主要メンバーの家を持ち回りで打ち合わせ場所に使っていたのですが、それではスペースが足りず、資料や必要な機材も増えてきたため、中野島の布田の古いアパートの一室を借りました。その後も必要に応じて広いところへ、南生田、菅稲田堤、そして現在の場所に引っ越しました。最初に事務所だったアパートはその後取り壊され、今は住宅が建っています。

活動も時代に応じて変化し、2002年にはNPO法人を取得しました。

その間に行政の少子化対策も進み、こども文化センターでの地域子育て支援センターが開始され、ままとんきっずは委託を受けて4か所での運営に携わることになりました。川崎市産前産後家庭支援ヘルパー派遣、川崎市地域の寺子屋事業など、その後も行政との協働は続いています。



現在のままとんきっず

ままとんきっずの活動の特徴としては、子育て中でもままとんサロンなど子どもと一緒に参加できる活動があるということです。最初は利用者としてサロンや講座や子育て支援センターに来ていた方たちがだんだんと活動そのものに興味を持ち、研修を受けてスタッフ側になり、子育てしながら自分も支援する側になっていく、お互いが育ち合う関係になっていく。

また子育て中の活動は病気や行事ごとなど、子どもの状況に応じて柔軟に助け合えるのが、重要な要素になっています。

やがて子どもが大きくなり入園や入学をすると、先輩お母さんとして育児経験を活かすことができる。そして長年のうちにはお母さんからばあばになった人たちも何人もいます。

もちろんメンバーの中には子育て経験のない人もいますが、一緒に活動する中で知識や経験が育ちます。専門職としての資格を取った人たちもいます。

こうして地域の中でお互いが育ち合うという関係は、大人だけではなく子どもにとっても大切なことで、家庭と学校や幼稚園、保育園とは違うもう一つの場所での人との繋がりが、時には息抜きの場所になったりします。

ままとんきっずから派生した「たまたま子育てまつり」や「こどもの外遊び交流委員会」、「たまたま子育てネットワーク」の『多摩区公園BOOK』の作成など、地域のお父さんたちを巻き込んでの活動もあります。

社会の変化により情報ツールも変化し、紙媒体もあり方が変わってきました。

けれど現在、ままとんきっずでは多摩区の子育て情報をまとめた『多摩区地域子育て情報BOOK』の編集に携わっていますが、最近の読者アンケートでは、やっぱり紙媒体が欲しいという人たちが60パーセントいました。

スマホだけでは使いにくかったり、家族で利用したり、子どもも見ているとか、紙の良さもまだまだあるのだと思います。

『多摩区公園BOOK』を父子で見るとは毎週公園めぐりをしているとか、子どもがこの遊具のある公園へ行きたいと指定するとか、家族のコミュニケーションになっているという話も聞きます。



「ままとんきっず通信」を図書館や市民館でふと手に取り、掲載されている子育て支援情報を活用し、ご自分の役に立てている方もやはり大勢いると思います。

情報発信から始まったままとんきっずの活動ですが、情報の受け手は様々で一つのツールがあればそれで足りるということはずありません。誰か助けを必要としている人に届くためには、落ちこぼれることがないように絶えずきめ細かな工夫が必要だと考えます。

これからも子育てママを中心にパパや地域の方達にも通信を活用してもらえよう、更にままとんきっずの活動を利用し応援してもらえよう、頑張っていきたいと思っています。

(ままとんきっず 前理事長 有北いくこ)

